

苦手だった教科が好きになった」と言われたいですね。

過去には、「テスト不使用運動」や、教科書会社からの著作権裁判など、業界が危機に瀕したこともありました。しかし、そんな壁にぶつかった時に裁縫セットや算数セットなどの「教具」という新しい分野を考え出すことができました。「窮すれば変じ、変じれば通じる」という言葉の通りです。今や教具は、文溪堂の重要な柱となっています。

私が社長に就任して1年彼の昭和63年9月1日、名古屋証券取引所市場第2部に上場を果たしました。会社がパブリックなものになったという感激は、忘れることができません。

当たり前のことをきちんとやる。
会社経営も教育も、それが一番大切です。

最近、青少年の事件が増えていますが、教育の現場を長年見てきて感じることをお話しください。

親に問題があると思います。「鉄は熱いうちに打て」といいますが、教育も同様です。つまり子どものうちの教育が大切です。戦後、自由という言葉放任とはき違えた親が増え、そのためにきちんとしつけが行えない家庭が増えてしまいました。

私は、去年古希を迎えたのをきっかけに、岐阜市の瑞龍寺で雲水修行を体験しました。そこで気が付かされたのは、何事にもまず形があるということ。この形をおろそかにすると、ミスがおこるのです。例えば、雪印や東海村の原子力発電所が、チェックをおろそかにしたために、周りの人に多大な迷惑を

かけました。当たり前のことを当たり前に行わないと、問題がおこります。家庭でも同じ事が言えます。まずは、親が朝起きたら「おはよう」と挨拶する。するとそれを見ている子ども「おはよう」と挨拶する子に育つ。親がまず、そんな当たり前のしつけを子どもに与えるようなくては、日本の未来が心配です。

家庭をうまくまとめられない人が、会社をまとめられるはずがない。

お忙しい毎日でしょうが、余暇はどのようにお過ごしですか。

私の趣味は、履歴書には読書、ゴルフと書きますが、謡曲、水彩画、書、お茶など趣味の域まで達していないもので、つらい修行のつもりでやっているものもあります。その中でも絵画とお茶は、女房と一緒に楽しんでいます。

会社のために奮闘していた私を理解し、

家庭を守ってくれた女房には感謝しています。

家庭をうまくやっつけられない人間が、会社をうまく経営できるわけがないと思います。家族が言いたい放題言うように、会社でも社員はそれぞれに意見を持っています。それをうまくまとめ上げ、舵をとるのが経営者たるものの努めではないでしょうか。

経済状況が低迷している時代を生き抜いていくための会社経営に大切なのは何でしょう。

「スピード」ですね。始める速さ、やめる速さ、進む速さ、切り替える速さなど、それには柔軟な頭脳と、素早い決断が肝要です。乗り遅れは許されません。特に零細企業は、隙間を狙い、人のやっつけられないことをやらなければ、先送りなんてしている場合じゃないですよ。こういう時代だからこそ、経営者の真価が問われるのではないのでしょうか。

最後に、法人会について一言お願いします。

商法人会は、納税意識は高いのですが加入率が延びず、肩身が狭いですね。法人会は、税金をきちんと払う企業の会です。法治国家ですから、決められたことはきちんと守らなければなりません。ぜひまだ未加入の方には、加入していただきたいですね。

